

C-41 立体裁断法による体表の近似展開 — 若い婦人の胴部について —

お茶の水女大家政 〇松山 容子 深田 順子
酒井 伸江

I, II 目的と方法 : 立体裁断法は、布を直接着衣基体に当てて形を定め、裁断し、服を作る手法である。そこには、着衣基体の特性を直接的に写し取ることができるといふ利点があり、これを体型把握に適用することができるならば、身体を覆うのに必要な平面上の図形の形と寸法について多くの情報が得られるだろう。ところで体型把握の方法として価値を認めるには、いくつかの条件を満たす必要があるが、そのうち最も重要なものはデータの再現性、すなわち誤差に関するものであろう。特に対象が生体であるので、呼吸、動揺、疲労による姿勢の変化に対する処置を考えなくてはならない。そこで、これらの問題点を克服して、信頼し得る方法とすることが可能か、予備実験で検討した。また方法としての特性を知るために、大学女子学生109名の胴部について、立位正常姿勢における体表コピーの採取を試みた。

III 結果 : 予備実験の結果にもとづいて、立体裁断法による体表コピーの採取方法・手順を設定した。その主要な要件は次のようである。1) 実験布は不織布(0.3mm厚)とする。2) 可能な限り身体と実験布を密着させて、対象とする体部を平面又は単曲面で被覆する。3) 作業は、実験者2名が前と後、左と右で同時に進行する。

この方法では限られた数の面で体表を被覆するため、身体の高部・凸部に若干の間隙が生じる。したがって、得られた展開図は体表の正確なコピーとはいえないが、限られた数の面で身体を覆うのに必要な形と面積をあらわしており、衣服パターン設計の基礎資料となると思われる。得られた資料を身体計測値との関連において考察した。